

「出会い系サイトと詐欺」～油断が生む連鎖～

- 仮名：Rさん
- 年齢：38歳
- 性別：女性

【はじめての冒険】

九州在住の35才・公務員のRさんからの相談だった。相談内容は、RさんがOL時代に出会い系サイトで知り合った男性との関係をめぐるトラブルだ。過去をさかのぼると、Rさんは子ども時代から勉強漬けの人生を過ごしてきたという。実家は母子家庭だったため、Rさんはいつも帰りの遅い母親に代わり、夕食の支度や家の手伝いをしながら家事を支えてきたという。学生時代は学業に専念し、夜遊びしたこともなかったという。

そんな優等生だったRさんの初めての「冒険」は社会人になってからの「出会い系サイト」だった。当時は、寂しさと時間つぶしという軽い気持ちだったが、28才から約4年間にわたり、ある出会い系サイトを通して知り合った男性との関係が続いたという。Rさんは都内の大学を卒業後、OLとして黙々と業務をこなす毎日だったが、なんとなく欲求不満な日々を送っていた。Rさんに「ハマっている」という自覚はなかったが、孤独を紛らわすために関係を断つことができず、情に流され4年間にわたる関係が続いた。

【ゆるい危機感と低い意識】

Rさんは33才の時、ある大学の事務職員として転職した。独身だったが、公私ともに順調。例の男性との連絡も途絶え、とっくに関係は消滅したと思い込んでいた。しかし、それはRさん側の「思い込み」でしかなかった。大学に勤めて2年経ったある日のこと。Rさんの携帯に知らない番号から着信があった。躊躇なく電話に出てみると、例の出会い系で知り合った男性だった。世間話と近況報告のような会話が続き、久しぶりの会話に、警戒心も持たなかったという。10分ほど会話が続き、男性のほうから『今の勤め先はどこなの？同僚と上司の名前を教えてよ。』と切り出してきたという。普通ならこの辺で「なぜ？」と疑問に思うところだが、驚くことにRさんは男性からの要求に全て応じてしまった。同僚や上司の名前から、住所、電話番号にいたるまで。本来なら同じ職場内であろうと第三者が勝手に漏らしてはいけないし、そういった規約もあるはずだ。今まで一般的な社会経験を積んできたはずのRさんだが、決定的なモラルと危機管理には欠けていた。

【予想外の展開】

それから間もないうちに、Rさんは人づてに“あなたの上司の名前で、出会い系サイトで知り合った複数の女性からお金を騙し取っている人がいる”という話を聞くことになる。それにもかかわらず、Rさんの危機意識は低いままだった。事態のクラクリが解けないうちに、再び男性から『(Rさんが所属している)趣味の合唱サークルについて教えてよ。知り合いがいるから、そのメンバーの名前も聞きたい』という。さすがに「何かヘンだ」と疑問も湧くはず……。しかし、これに対してもRさんは危機感なくペラペラと答えてしまったというのだから、まったく呆れてしまった。この合唱団には、現役・退職した教職員などが多く所属していた。それから程なくして、Rさんは合唱団のメンバーから“団員を名乗る人物から電話があり、「お金を振り込んでほしい」と頼まれた”と、Rさん自身が絡んだ「詐欺」が横行していることを知るハメになる。この期に及んでようやくRさんは事の重大さを感じはじめ、駆け込み寺に相談に来た。一通り話を聞いたうえで私は、『こうなった以上、Rさんにも個人情報も漏洩した責任が生じるだろう。まずは、Rさん自身が弁護士と警察に相談し、法的に解決していくことしかない。』と伝えた。Rさんにとっては「思わぬ結果」のようだったが、これも自分が蒔いた種だ。その足で警察に相談に行ったRさんだが、その後の連絡はない。